

磐越自動車道

新鶴スマートインターチェンジ
開通の効果

社会実験開始 平成17年12月26日
 本格運用開始 平成19年 4月 1日
 24時間化開始 平成26年 6月 1日

開通の効果：観光活性化を支援

- 会津地方の観光名所である大内宿は年間約80万人の集客がある。新鶴SICが運用する前は、会津若松ICからのルートが主要道であったが、新鶴SIC運用により交通量が分散され、さらに会津美里町→大内宿→会津若松市の観光ルートが構築された。
- 新鶴SICが運用されアクセス性の向上により、会津美里町の大型イベントへの参加促進に繋がっている。



会津美里町大型イベントと新鶴SIC利用台数の相関関係

○会津美里ふれあいウォーク

毎年9月から10月の休日に開催される会津美里町主催のウォーキング大会。毎年度1,000名程度の参加がある。開催日の利用台数が増加していることがわかる。

<新鶴SIC利用想定台数(台)>
 H27→560、H29→350、R1→300



R2大会は新型コロナで中止



・青→イベント開催日の利用台数(単位:台)
 ・橙→開催月の1日あたり平均利用台数(単位:台)

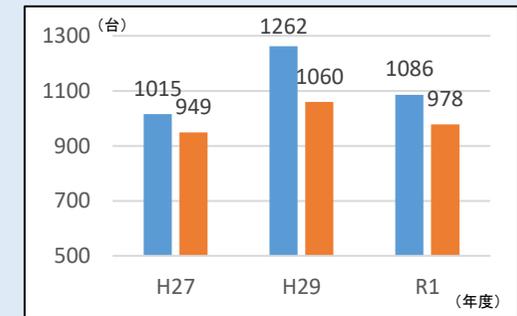
○時空の路ヒルクライム

毎年5月第3日曜日に開催される地元新聞社主催の自転車ロードレース大会。毎年800名程度の参加がある。上記ウォーク同様、利用台数が増加している。

<新鶴SIC利用想定台数(台)>
 H27→78、H29→59、R1→85



R2大会は新型コロナで中止



・青→イベント開催日の利用台数(単位:台)
 ・橙→開催月の1日あたり平均利用台数(単位:台)

開通の効果：地域産業の活性化

社会実験開始 平成17年12月26日
 本格運用開始 平成19年 4月 1日
 24時間化開始 平成26年 6月 1日

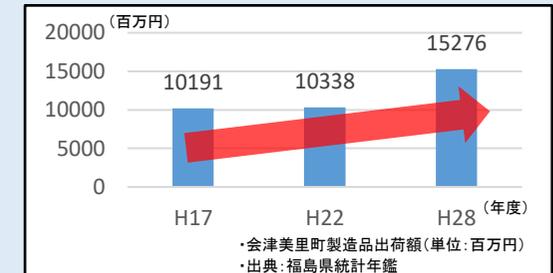
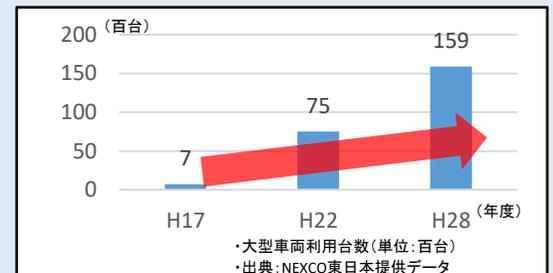
- 会津美里町の製造業出荷額は増加傾向にある。新鶴SICにおける大型車両利用台数が増加していることから、製造業に対する整備効果が表れていると言える。
- 平成28年9月には、高田工業団地内に東北二番目の収容量を誇る米倉庫『美米蔵』が完成。



会津美里町の大型台数と製造業出荷額変遷

新鶴SICを利用している大型車両台数は年々増加傾向にある。それに連動するように、会津美里町の製造業出荷額も増加している。また、高田工業団地・新鶴工業団地に立地する企業(25社)のうち約半数(12社)が製品運搬等の業務に新鶴SICを利用している。うち1社は夜間の運搬で新鶴ICを利用している。

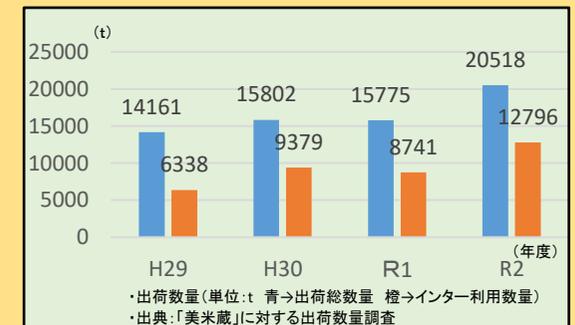
【高田工業団地立地企業ヒアリング】
 出荷物の現着時間帯が早朝になる企業にとって24時間化は業務の効率化に大きく役立っています(企業アンケートより)。



<高田工業団地「美米蔵」>

会津地方で生産したコメを集荷し、関東方面や関西、北陸方面に出荷。特に、東京都・埼玉県・神奈川県・新潟県へ出荷は新鶴SICを利用している(全農福島)。

【全農福島ヒアリング】
 地理的条件や地価、新鶴スマートICが近接することを含んだ道路条件から、当地に立地する要因となりました。



開通の効果: 救急医療支援

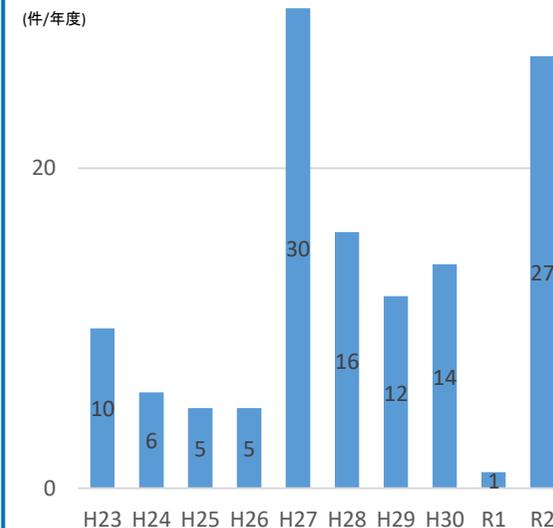
社会実験開始 平成17年12月26日
 本格運用開始 平成19年 4月 1日
 24時間化開始 平成26年 6月 1日

- 新鶴SICの利用により、新鶴地区から会津中央病院への救急搬送時間が約6分短縮。
- 磐越道を利用し走行性が向上することで、傷病者への負担が軽減し、安静運送が可能。



出典: 所要時間 H27道路交通センサス

新鶴スマートICを利用した救急搬送件数



救命救急 現場の声

緊急度の高い傷病者を、国道の渋滞等を見てより迅速に搬送するため、新鶴SICを利用しています。

カーブや凹凸の少ない磐越道を利用しての搬送は、傷病者への負担を軽減できます。

会津美里消防エアリングより